

研究主題

教科における読解力の向上に関する研究

—国語科及び算数・数学科における児童・生徒の学習段階に着目した指導の工夫—

目 次

I	研究の経緯及び背景	28
II	研究のねらい	28
III	研究の具体的内容	28
1	「読解力の構成要素」に対応した学習活動の在り方	28
2	各学習段階において目指すべき「読解力の到達目標」	29
3	教科（国語科及び算数・数学科）における「読解力の到達目標」	29
4	「読解力」を重視した学習段階別の具体的な学習指導例	30
5	「読解力」育成の視点を取り入れた単元指導計画の作成手順	30
IV	「読解力」育成のための単元指導計画案	31
1	国語科	32
2	算数・数学科	39
V	研究の成果及び課題	44
1	研究の成果	44
2	今後の課題	44
O	指導資料集	45

＜ 研究の成果と活用 ＞

1 教科指導にすぐ役立つ指導資料の開発

○「学習指導要領」を基に、学習段階ごとの目指すべき「読解力の到達目標」を示した。また、その到達目標に示した力の育成のために必要な指導内容を読解力の構成要素ごとに整理して一覧表にした。

○「国語科及び算数・数学科における読解力の到達目標」を設定した。

○読解力の育成を重視した具体的な学習活動を、学習の段階ごとに例示した。

2 具体的な授業づくりへの活用

○「読解力の到達目標」を基に、各学校の各教科・科目において、読解力育成を目的とした授業を実践することができる。

○開発した指導資料を参考に作成した10の具体的な単元指導計画をモデルとして読解力の育成の視点をもった授業を計画することができる。

I 研究の経緯及び背景

昨年度の研究で「読解力」とは、読む活動や書く活動の中核となる「考える力」ととらえるとともに、「読解力向上に関する指導資料（文部科学省）」（平成 17 年 12 月）で示された読解過程から、「読解力の構成要素」を、以下のように整理した。

- ・情報の取り出し（「取り出し」）＝ 「取り出す」
- ・情報から推論し意味を理解する（「解釈」）＝ 「まとめる」
- ・情報を自らの知識や経験に位置付ける（「熟考・評価」）＝ 「創り出す」

また、教科の内容と読解力を関連付け、以下のような活動を中心に指導の工夫を設定した。

- ・工夫① 読む活動 文章・資料を理解・評価しながら読む活動を取り入れる。
- ・工夫② 表す活動 文章・資料に基づいて自分の考えを表す活動を取り入れる。
- ・工夫③ 機会の充実 様々な情報の中から大切な情報を選び、それを活用する活動を充実させる。

さらに、この指導の工夫①及び②に合わせて「読解力の構成要素」からみた目指す児童・生徒の姿を示している。これにより、読解力が身に付いた児童・生徒の様子を明確にとらえることができ、読解力の評価にも生かせるとした。そして、読解力の構成要素ごとに示した指導の具体的な手だてを参考に児童・生徒の実態等に応じて学習活動を展開すれば、読解力が向上するとしている。

そして、次年度以降の課題として、

ア 読解力向上のための具体的な指導の手だてについて、児童・生徒の学習の段階に応じて指導内容に系統性をもたせる必要があること。

イ 各校の教科指導に読解力育成に向けた学習活動の取り入れ方を具体的に示す必要があること。

の 2 点を挙げている。

II 研究のねらい

昨年度の研究で指摘しているとおり、読解力は継続的に指導することで育成される能力であり、読解力の育成に着目した学習活動を、計画的に繰り返し行っていくことが大切である。そこで、今年度は研究を一步進め、研究仮説を「読解力の構成要素とその役割を踏まえ、それぞれの教科において、児童・生徒の学習段階における読解力の到達目標を明確にして指導を行うことで、着実に読解力が向上し、求められる学力を身に付けることができる。」とし、学校が「読解力」向上に向けて計画的に指導できるよう、指導の系統性を重視した指導資料の開発を目指した。すなわち、具体的には昨年度の研究で明らかにした「読解力の構成要素」の役割を踏まえ、読解力向上を図るための指導の重点である「読む活動」と「表す活動」を中心に据え、教科指導における「読解力」の向上を目的とした学習計画と学習内容における段階ごとの評価に生かせる「読解力育成の目標」を明らかにした単元指導計画を開発することを目指した。

III 研究の具体的内容

1 「読解力の構成要素」に対応した学習活動の在り方

まず、読解力の構成要素に対応した学習活動の在り方について検討した。構成要素と学習活動との関係をより明確にすることで、教科の指導において、それぞれの構成要素に対応した学習活動を工夫して授業計画を容易に立てることができる。検討の結果、それぞれの構成要素に対応した学習は、以下に挙げる活動を含むものとした。

ア 「取り出す」：テキストから情報を正しくとらえる力。

- ・テキストから必要な情報を見付け出す活動。
- ・テキストから不必要な情報を見付け出す活動。
- ・テキストから必要な情報を取り出し分類する活動。
- ・テキストから必要な情報を取り出し整理する活動。

イ 「まとめる」：テキストの内容について吟味し、意味や作成の意図を理解・解釈する力。

- ・テキストの内容を要約する活動。
- ・テキストの内容を解釈し発表する活動。
- ・テキストの内容についての意見交換をする活動。
- ・テキストの内容について推論する活動。
- ・テキストの内容についての他者の意見を聞く活動。

ウ 「創り出す」：テキストの内容等を熟考・評価し、自分の知識や経験と関連付けて新たな意見等を創造していく力。

- ・テキストの内容を踏まえて自分の意見を構築する活動。
- ・テキストの内容を踏まえて創り上げた自分の意見を発表する活動。
- ・テキストの内容を踏まえて他者と自分の意見について議論をする活動。
- ・テキストの内容を踏まえて他の事象について推論する活動。

2 各学習段階において目指すべき「読解力の到達目標」

本研究では、学習指導要領における各教科・科目（以下、「教科等」という。）の目標や内容に照らした「学習段階」を設定した上で、「読解力」は特別な能力ではなく、その目標や内容の中に示されていると考え、徹底した学習指導要領及び同解説の分析を行った。小学校から高等学校までの全校種、全学年及び全教科・科目にわたる記述の中から「読解力」に関連する部分を取り出して精査した結果、完成したのが指導資料集にある「各学習段階において目指す『読解力の到達目標』」である。（【資料1】）

「読解力の到達目標」とは、小学校低学年から高等学校までのそれぞれの学習段階で「読解力」を確実に身に付けるために、それぞれの学習段階終了時まで目指すべき目標であり、その目標を達成するために教科等で意識して取り組むべき学習活動を、前述した3点の「読解力の構成要素」それぞれについて明記した。

3 教科（国語科及び算数・数学科）における「読解力の到達目標」

国語科と算数・数学科における「読解力の構成要素」ごとに、「読む活動」及び「表す活動」において目指す児童・生徒の姿を当該教科における「読解力の到達目標」として、小学校低学年から高等学校まで学習段階別に示した。（【資料2】）

学習指導要領に示された教科等の目標や指導内容の中には、「読解力」を身に付けるための学習活動が多く含まれているものの、はっきりと明記されておらず、読解力の育成に着目した系

統性も示されていないため、従来は読解力育成の視点に立った体系的な計画を立てにくい状況があった。その課題解決に資するため、各教科における「読解力の到達目標」の設定に当たっては、読解力の構成要素ごとに、段階を踏んで学習が進んでいくような系統性をもたせることに留意した。

4 「読解力」を重視した学習段階別の具体的な学習指導例

教科等の学習活動の中には、「読解力」を向上させるために適した活動がある。そこで、国語科及び算数・数学科の年間の学習において、「読解力」の育成に適した学習活動を抽出・例示し、学習段階ごとにまとめた。【資料3】

授業を行う際の使用テキストとともに、そのテキストを利用した読解力向上のための具体的な学習活動を例示した。また、それぞれの学習活動がどの構成要素に当たるかも示したことで、授業展開上の工夫がしやすくなり、「読む活動」と「表す活動」の指導の工夫についてもバランスよく授業に取り入れることができる資料となっている。

この資料は、国語科においては指導計画の中に記載したテキストを使用して行う読解力向上のための具体的な学習の活動を示した。また、算数・数学科においては、学年ごとの系統性が明解な「関数」に当たる学習内容を基に各学習段階における具体的な学習活動を示した点が、それぞれの教科の特性として資料に反映している。

5 「読解力」育成の視点を取り入れた単元指導計画の作成手順

次章で読解力育成に着目した単元指導計画例を提案するが、ここでは、高等学校の国語総合の単元指導計画（38ページ参照）を例に【資料1】から【資料3】までの本研究で開発した指導資料を用いて、実際に単元の指導計画を作成する手順を説明する。

○手順1

まず、【資料1】「各学習段階において目指す『読解力の到達目標』及びその構成要素ごとの学習活動」から、高等学校の生徒が目指すべき姿（目指す「読解力の到達目標」）を確認する。

・高等学校の「読解力の到達目標」

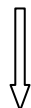
テキストを複数の視点から、論理的に関連付けて整理することで物事の本質をとらえ、課題を主体的に解決する力。

上記の能力を育成するための指導の工夫を取り入れることが、指導計画を立案する際の視点となる。

○手順2

続いて、【資料2】「国語科における『読解力の到達目標』」では、教科としての具体的な目標が示されているので、使用する教材等を考慮に入れ、どの読解力の構成要素に焦点を当てた授業展開とするかを検討して単元における読解力育成の目標を定める。この単元においては、高等学校入学後間もない生徒が多く接する教材であることを踏まえ、「取り出す」学習や「まとめる」学習活動も含めながら、「創り出す」学習活動を中心に据えた指導をすることを定め、同時に教科としてどの内容（A「話すこと・聞くこと」、B「書くこと」、C「読むこと」）・事項（Aア「様々な問題について自分の考えをもち、筋道を立てて意見を述べること」等）で指導するかを決定した。

- ・ 高等学校国語科「創り出す（読む活動）」の到達目標



テキストの内容を自分の知識や経験に照らして読み、人間、社会、自然等について自分の考えを広げたり、深めたりする。

- ・ この単元での読解力育成（「創り出す（読む活動）」）の目標

テキストの内容を踏まえて「評論文における客観性」について自分の意見を構築する。

実際の指導計画を立てる際には、【資料 2】にある一般的な目標を、実際の授業に合わせた行動目標にすることが大切である。

○手順 3

最後に【資料 3】『読解力』を重視した具体的な学習活動例から、手順 2 で設定した目標を達成するための実際の学習活動を探し出し、指導計画の中に組み入れる。

- ・ 高等学校国語総合「実際の学習活動」（説明的文章）



筆者の現状分析を受け、自分の意見を構築する。

- ・ 本時での学習活動

前時にそれぞれがまとめたテキストの「説得力」を基に、「評論文における客観性」について考え、自分の意見を発表する。

読解力の育成のために、新たな授業を創造するのではなく、従来から行われてきた授業に「読解力育成の視点」を取り入れた学習活動を加えることがポイントである。この単元指導計画例は第 1 時から第 4 時まで、読解力の構成要素に当たる学習が入っており、通常の授業の流れの中にも多くの読解力育成の視点があることを表している。

IV 「読解力」育成のための単元指導計画案

Ⅲ－5 の手順により作成した単元指導計画案を、小学校低学年、中学年、高学年、中学校及び高等学校の学習段階ごとに例示した。また、小学校第 4 学年及び中学校第 1 学年の国語科で実際に作成した単元指導計画を基に実践授業を行ったため、授業の考察も掲載した。なお、作成に当たっては、国語科については、最も指導の工夫が求められる「創り出す」学習活動を中心に取り上げ、算数・数学科については、問題解決学習の流れを重視した単元指導計画とした。

1 国語科（32～38 ページ）

小学校第 1 学年	単元名「じゅんじょをかんがえよう」
小学校第 4 学年	単元名「調べたことを知らせよう」
小学校第 6 学年	単元名「主人公の心の成長を読み取ろう」
中学校第 1 学年	単元名「言葉を考える」
高等学校国語総合	単元名「論の展開を正しくたどり、筆者の主張を読み取る」

2 算数・数学科（39～43 ページ）

小学校第 1 学年	単元名「かずをくらべよう」
小学校第 4 学年	単元名「変わり方調べ」
小学校第 6 学年	単元名「比例」
中学校第 2 学年	単元名「一次関数」
高等学校数学 I	単元名「二次関数とそのグラフ」

1 国語科 読解力育成のための単元指導計画（小学校第1学年 国語）

- ① 単元名 じゅんじょをかんがえよう
教材名 「はたらくじどう車（せつめい文）」
- ② 本単元における読解力育成の目標
- ＜読む活動＞
取り出す：順序に着目して「はたらくじどう車」の「しごと」「つくり」「しごとのしかた」の内容の大体を理解する。
- ＜表す活動＞
創り出す：自分の調べた「はたらくじどう車」について、自分の考えを表現する。
- ③ 単元の指導計画（全10時間）

時	読解力に着目した教科の目標	主な学習活動	指導内容	テキスト	読解力の要素					
					読む			表す		
					取	ま	創	取	ま	創
1	題名を読み、文章の内容を想像する。	・「はたらくじどう車」について知っていることを話し合う。	Aウ	教材文						○
2	教材文を読み、じどう車について書かれていることを知る。	・教材文や写真を手がかりにして、4種類の車について「しごと」「つくり」「しごとのしかた」に気付きながら読む。	Cイ	教材文 写真	○					
3	「はたらくじどう車ずかん」バスのページを作る。	・教材文や写真を手掛かりにして「しごと」「つくり」「しごとのしかた」を考えながら読む。 ・教師と一緒に教材文を写しながら、接続詞や語尾に注目する。	Cイ	教材文 写真	○					
4	「ずかん」コンクリートミキサー車のページを見る。	・ワークシートを使い、接続詞に注目して、「しごと」「つくり」「しごとのしかた」の順序で文章を完成させる。	Bウ	教材文 写真				○		
5	「ずかん」ショベルカーとポンプ車のページを作る。	・第3・4時にならって、テキストから必要な部分を自分で取り出し、文章を完成させる。	Bウ	教材文				○		
6	自分の書きたい「はたらくじどう車」について調べる。	・「はたらくじどう車」について自分の知っていることや自分の経験を思い出したり、図鑑で調べたりして、カードに書く。	Bア	絵本 図鑑						○
7										
8	「じどう車ずかん」を完成させる。【本時】	・カードを基に自分の「はたらくじどう車ずかん」のページを作る。	Bア	カード						○
9	完成した「ずかん」を友達と紹介し合う。	・調べたことを友達に紹介する。 ・友達が調べたことの発表を聞く。	Aウ	自分の 図鑑			○			
10	「ずかん」をグループで発表し合う。	・調べたことを友達に紹介する。 ・友達が調べたことの発表を聞く。	Aウ	自分の 図鑑						○

④ 本時の指導（第8時／全10時間）

○創り出す
自分の経験や自分の知っていることを楽しんで表現する。

- ア 教科としての本時のねらい
- ・自分が書きたい「はたらくじどう車」について、「しごと」「つくり」「しごとのしかた」「じぶんのかんがえ」の順序を整理し、文と文との続き方に注意して文章に書く。
- イ 本時の展開

学習活動	○評価規準【領域と内容】 ■指導上の留意点
1 本時の活動を確認する。	
2 自分が書きたい車の「しごと」「つくり」「しごとのしかた」について色の違うカードの順番を確認し、文章を完成させる。	
創り出す場面	
3 自分がそのじどう車をどう思っているか、見たこと、聞いたことをカードに書く。	○ 相手（友達）や目的（図鑑にして友達に知らせる）を考えながら書いている。【Bア】 ○ そのじどう車について考えたことを簡単な文の組立てを考えて書いている。【Bエ】
4 次時に友達に紹介するために、今日、自分が完成させた「じどう車ずかん」の文章を声に出して読む。	■ 教師が幾つかのモデルを提示し、自分が思ったことや友達に伝えたいことを簡単な組立ての文章にできるようにする。
5 今日の学習について自己評価する。	
6 次時の学習内容を知る。	

読解力育成のための単元指導計画（小学校第4学年 国語）

- ① 単元名 調べたことを知らせよう
教材名 生活をみつめて（新聞記事をテキストとして使用）
- ② 本単元における読解力育成の目標
〈読む活動〉
取り出す：新聞記事から目的に合った情報を見付け出す。
〈表す活動〉
まとめる：テーマ設定の理由、調べ方、調査結果を相互の関係に注意して表現する。
創り出す：表現方法を工夫して、自分の考えを報告書にまとめる。
- ③ 単元の指導計画（全8時間）

時	読解力に着目した教科の目標	主な学習活動	指導内容	テキスト	読解力の要素					
					読む			表す		
					取	ま	創	取	ま	創
1		学習計画を立て、学習に見通しをもつ学習を行う。		・教材文						
2	テキストから自分たちの生活に関係のある話題を取り出す。	・身近なテキストの中から、自分たちの生活に関係のある話題を取り出す。 ・取り出したテキストから、疑問に思うことや自分の調べたいことを選ぶ。	Cア Bイ	・教材文 ・付箋 ・新聞等 ・保健、給食だより	○				○	
3	同じ話題ごとにグループをつくりテーマを決める。調べ方と聞きたいことを決め結果を予想する。	・同じ話題に関心のある人同士でグループを作り、テキストを基にして「調べること」（テーマ）と調べ方を考える。 ・グループごとに自分たちの生活を振り返り、予想される結果を考える。	Cオ Aイ	・教材文 ・新聞 ・カード		○			○	
4	知りたいことをはっきりさせて、調べる準備をする。	・アンケートの作り方を知る。 ・非連続型テキストの読み取り方について理解する。 ・テキストを基に、自分たちが調べるテーマに合ったアンケートを作る。 （アンケートは休み時間等でとる）	Cイ Bウ	・教材文 ・ワークシート ・新聞 ・カード		○				○
5	集めた情報を目的に合わせて整理する。	・アンケートの結果をグループごとに集計表に整理する。 ・整理した集計表を参考に各自グラフに表し、自分が伝えたい内容を明確にする。	Bイ Bオ	・アンケート用紙 ・集計表		○				○
6	テキストから理解したことを段落相互の関係に注意して表現する。	・「報告書」にまとめる内容を知る。（①テーマ設定の理由②調べ方③調査結果④分かったこと、新たに気付いたこと、疑問等） ・テーマ設定の理由、調べ方、調査結果をそれぞれのカードにまとめる。	Bウ Bエ Cオ	・表やグラフ ・カード ・教材文						○
7	テキストの内容を基にして、自分の考えを明確にする。考えたことを相手や目的に応じて表現する。【本時】	・基にしたテキストと自分が調べた結果を比較し、分かったこと等をワークシートに整理する。 ・「提案しよう」というタイトルで自分の考えを150字程度にまとめる。	Cオ Bア	・新聞 ・カード ・表やグラフ			○			○
8	適切な表現になっているかを確かめる。	・相手に分かりやすく伝わるようにこれまでのカードやグラフ資料等の割付を考え報告書として完成させる。 ・報告書を相互評価し、感想や意見を交流する。	Cエ Aウ	・各自の報告書			○			○

④ 本時（第7時／全8時間）

ア 教科としての本時のねらい

・調査結果を基に自分の考えをまとめることができる。

○創り出す 相手や目的に応じて、表現方法を工夫する。

イ 本時の展開

学習活動	○評価規準【領域と内容】■指導上の留意点
1 本時のめあての確認 創り出す場面	○ テキストの内容を基にして、自分の考えを明確にする。【Cオ】 ○ 考えたことを相手や目的に応じて表現する。【Bア】
2 テーマ設定の基になった新聞の内容と、自分達が調べた結果とを比べて考え、分かったことをワークシートに記入する。 創り出す場面	■ 本時のテキストを配布する。 ・テーマ設定の基になった新聞 ・前時に書いたカードとグラフ ■ ワークシートを配布し、視点ごとに考えるよう伝える。 ■ 特に、前時の③調査結果に基づいて自分の考えを書くように伝えたり、新聞の記事と関連する箇所を示す。考える基になる内容が明確になるように取り出す。
3 ワークシートを参考にしながら「ていあんしよう」というタイトルで、自分の考えを150～200字程度にまとめる。	■ 「提案しよう」というタイトルを示すことで、相手を意識したり、目的を明確にしたりして書くよう意識を高める。 ■ 「自分の考えを書くカード」は、150字用、200字用を用意し児童の実態に応じて選ばれる。 ■ 児童の調査結果から一つずつ事実を聞き出したり、言葉をつなぎ合わせて例文を示す。
4 本時の学習を振り返り、次時の学習の見通しをもつ。	

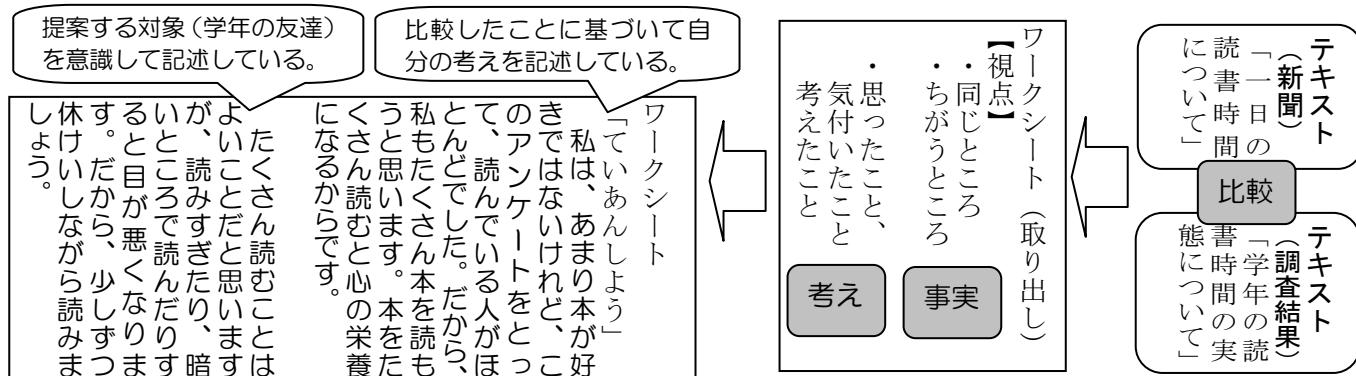
⑤ 実践授業考察

《本時における読解力育成に向けた指導の工夫》

小学校第4学年という学習段階を踏まえ、自分の考えを創り出すために、テキストを「比べる」という思考活動を設定した。「新聞記事の内容」と「児童が自ら調べた学年の調査結果」をテキストとし、これらの共通点や相違点等を取り出す学習活動を意図的に取り入れることで、児童が段階を踏んで自分の考えを構築できると考えた。

《児童の変容》

読解力の構成要素	指導の工夫	実際の活動	児童の変容
創り出す	ねらいの明確化	「創り出す」学習活動のねらいを提示する	・「読解力」における学習のポイントを毎時間示すことで、児童が学習のねらいを明確にし、見通しをもって学習を進めることができた。
	「テキストを比べる」活動の設定	「新聞記事」と「児童が調べた調査結果」を比較する	・自分の考えを創り出す前に、視点を与えて二つのテキストを比較した。事実と考えを分けて表現できるようになった。 ・同じテキストであっても、児童によって多様な解釈が促進された。その結果、多様な「自分の考えを提案する文章」を引き出すことにつながった。
	ワークシートの工夫	視点に基づいてワークシートに取り出す	・考える視点を示したワークシートを提示することで、児童は「比べて考える」という思考活動への展開をスムーズにした。 ・段階を踏んで考えをまとめることで、すべての児童が「自分の考えを提案する文章」を完成させることができた。また、達成感にもつながった。



《読解力の構成要素「創り出す」に着目した授業を行ったことによる成果》

【本時から明らかになった成果】

- テキストを「比べる」という思考活動を設定することは、児童がテキストの理解を深めたり、共通点や相違点に着目して考えたりする上で有効である。
- テキストを比べる学習活動において、児童に考える視点（「同じところ」「ちがうところ」「思ったこと」…等）を与えることは、児童が自分の考えを事実と感想に分けて構築する上で有効である。

【「創り出す」場面における授業の留意点】

- テキストを比較するためには、児童がテキストを十分理解していることが前提となる。そのため、教師は新聞記事の内容を事前に吟味し、提示することが大切である。
- 「提案文」の作成において、相手や目的を意識させることが「創り出す」活動を活性化することにつながる。
- 自分の考えを創り出す学習活動において、「テキストの比較→分かったことの取り出し→友達との交流→相手を意識した提案」というプロセスが有効である。

読解力育成のための単元指導計画（小学校第6学年 国語）

- ① 単元名 主人公の心の成長を読み取ろう
教材名 「海の命」
- ② 本単元における読解力育成の目標
＜読む活動＞
まとめる：テキストから主人公の心の成長と影響を与えた人や自然の関係を押さえて読む。
創り出す：自分の考えを明確にしながらかテキストを読む。
＜表す活動＞
創り出す：テキストの内容を基に、自分の考えを明確に表す。
- ③ 単元の指導計画（全10時間）

時	読解力に着目した 教科の目標	主な学習活動	評価 項目	テキ スト	読解力の要素					
					読む			表す		
					取	ま	創	取	ま	創
1 2	提示された観点をもとに感想を書く、読みの課題をもつ等、文章の内容を的確に理解する学習を行う。			教材文 挿絵						
3										
4	主人公の心の成長に影響を与えた人や自然について読み取る。	・1・2の場面を読む。 ・主人公の心の成長や影響が分かる叙述をテキストから取り出し、ノートや表に整理する。 ・叙述と叙述の関係から分かったことや考えたことを書く。	Cイ Cエ	教材文 挿絵 辞書	○					
5	自分の考えを基に友達と考えを交流し合う。	・意見交流から気付いたことや分かったこと、考えたことを書き足したり、修正したりする。	Aア Bエ	ノート 表						○
6	文章の叙述に即して、主人公の心の成長をさらに読み取る。	・3・4の場面を読む。 ・前時に深まった読みを生かして、叙述と叙述の関係から考えたことを書く。	Cイ Cエ	教材文 挿絵 ノート・表 辞書	○	○				
7	自分の考えを基に、友達と考えを交流し合う。	・主人公の心の成長について、自分が考えたことを基に友達と意見交流する。	Aア Bエ	ノート 表						○
8	文章の叙述に即して、主人公の心の成長をさらに読み取る。	・課題に向かって5・6の場面を読む。 ・これまでに深まった読みを生かして、叙述と叙述の関係から考えたことを書く。	Cイ Cエ	教材文 挿絵 ノート・表 辞書	○	○				
9	自分の考えたことを基に、友達と考えを交流し合う。【本時】	・主人公の心の成長について考えたことを基にして、友達と意見交流する。	Aア Bエ	ノート 表						○
10	作者が何を伝えたいかを自分と比べたり重ねたりしながら文章に書く。	・作者が何を伝えたいか自分が考えたことを文章にまとめる。 ・互いの作品を読み合い、共感する考えや別の考え、考えを付け足す部分を話し合う。	Bア Bエ	自分の文章 友達の文章			○			○

- ④ 本時の指導（第8時／全10時間） ○創り出す 主人公の心の成長や、影響を与えた人や自然についてテキストから考えたことを明確に表現し、友達と交流する。

ア 教科としての本時のねらい

- ・話題に基づいて友達と意見交流をし、同じテキストを基に多様な考えがあることに気付き、自分の考えを深めることができる。

イ 本時の展開

学習活動		○評価規準【領域と内容】 ■指導上の留意点
1 交流する話題を確認する。	太一の心の成長年表を基にして友達と意見交流しよう	
2 交流する時に大事にしたいことや気を付けたいことを確認する。		○ 自分の考えが友達に伝わるように具体的にテキストの内容を挙げながら分かりやすく話そうとしている。【Aア】
創り出す場面		■ 交流する時に、自分の考えの基になった具体的なテキストを示しながら、話すことを助言する。
3 太一の心の成長について考えたことを、年表を基にしながら意見交流する。		■ Aの意見交流は、全体で進める。その話し合いを基に、Bの意見交流をグループで行う。
【話題】		
A 太一が瀬の主を殺さなかつたいきさつは。（全員で話し合う。）		
B 太一と父はどちらがすぐれた漁師か。（グループで話し合う。）		
4 どんな交流をしたか発表する。		○ 友達との意見交流から自分の読みを振り返り、新たな考えを付け加えたり修正したりしている。【Cエ】【Bエ】
創り出す場面		■ 考えが一致した点や多かった考え、くいちがった考えについて全体の前で発表させ、同じテキストを基に多様な読みがあることに気付かせる。
5 友達との意見交流を受けて、年表に自分の考えを書き足したり、考えを修正したりする。		■ 意見交流を通して友達から学んだことを、何人か紹介し、次時の学習に生かす。
6 今日の学習について自己評価する。		
7 次時の学習内容を知る。		

読解力育成のための単元指導計画（中学校第1学年 国語）

- ① 単元・教材名 言葉を考える
文化庁「国語に関する世論調査」（一部抜粋）
- ② 本単元における読解力育成の目標
〈読む活動〉取り出す：三人の筆者の主張とその根拠をそれぞれ取り出して比較する。
〈表す活動〉まとめる：言葉についての自分の考えを表すに当たり、自分の考えに近い筆者の考えを引用する。
- 創り出す：それぞれの筆者の言葉についての見方や考え方を理解し、自分の経験や知識と結びつけながら、自分のものの見方や考え方を深め、伝え合う。

「言葉は変わっていくけれど」清水義範
「テレビ言葉の『聴き方』」梶原しげる
「今どきの言葉づかい」金田一秀穂

③ 単元の指導計画（全4時間）

時	読解力に着目した教科の目標	主な学習活動	指導内容	テキスト	読解力の要素					
					読む			表す		
					取	ま	創	取	ま	創
1	テキストの要点をとらえ、それぞれの筆者の立場について理解する。	・3つのテキストを読み、それぞれの筆者の主張と具体例を一つの表にまとめる。	Cカ Cイ	教材文	○					
2	テキストにある具体例を理解した上で筆者の主張について主体的に考える。	・具体例に類似したことが自分の生活の中にないか、話し合いながら考える。 ・個々の具体例について違和感の有無で分類し、グループで意見交流をする。	Cオ 言イ 関 Aイ	教材文 世論調査			○			○
3	テキストを踏まえて、自分の言葉遣いや言葉の習得についての考えをまとめ、発表のための原稿を書く。【本時】	・前時の意見交流を踏まえ、「自分は新しい言葉や意味が変化した言葉とどのように付き合うか」ということについて意見をもつ。 ・意見をまとめるために引用したい部分をテキストから取捨選択し、要約する。 ・自分の考えを述べる発表原稿を書く。	Cオ 関 Cイ Bウ Bア	教材文 世論調査			○		○	○
4	言葉や言葉遣いについての考えを伝え合う。	・フリップに自分の考えを簡潔に表した上で、それを見せながら発表する。 ・発表者のものの見方や考え方と自分のものの見方を比べた上で自分の考えを深める。	Bイ Aア 関	自他の発表						○

○創り出す 書き手のものの見方や考え方を理解し、自分のものの見方や考え方を深めて、自分の経験や知識と結びつけながら表現する。

④ 本時の指導（第3時／全4時間）

ア 教科としての本時のねらい

- ・テキストを踏まえて、自分の言葉遣いや言葉の習得について主体的に考える。
- ・テキストを引用しながら自分の考えを簡潔に表すことができる。

イ 本時の展開

学習活動	○評価規準【領域と内容】■指導上の留意点
1 前時の意見交流を振り返りながら本時の学習内容を確認する。	
創り出す場面	
2 「自分はこれから新しい言葉、変化した言葉とどのように付き合っていくか」というテーマで、意見をもつ。	○ テキストに表れたものの見方や考え方をもとにして、具体的な場面を想定しながら自分の考えをまとめている。【Cオ】 ■ 前時の意見交流を振り返らせ、文化庁の「国語に関する世論調査」を参考にさせる。 ■ 「新しい言葉、変化した言葉を積極的に使うか、使わないか。使う場面や言葉の種類に条件があるならそれはどんなことか。」など構想メモを作らせる。
3 テキストから自分の意見を述べるのに関係する部分を引用する。	○ テキストから自分の考えを表すために適切な部分を要約しながら引用している。【Cイ・Bウ】
創り出す場面	
4 自分の考えを200字～400字の発表原稿にまとめる。	○ 自分の考えを的確に表すためにふさわしい具体例をさがし、それを基にして自分の考えを述べている。【Bア】 ■ 「自分はこうしたい」、「考えの根拠」、「具体的な言葉の例」及び「テキストの一部からの引用」の4つの要素を含ませる。書く順序は工夫させる。
5 次時に、自分の考えにタイトルを付けた上で発表することを知る。	

⑤ 実践授業考察

《本時における読解力育成に向けた指導の工夫》

読んだことを踏まえ、「変化した言葉や新しい言葉との付き合い方」について、自分の知識や経験に照らしながら考えを創り出す学習活動において、下のようなワークシートに沿って指導を行った。

構成メモは4つの項目を立てて書かせた。

★意見発表のための構想メモ

自分はどう考えます。

自分はどう考えます。

自分はどう考えます。

「言葉を考える」学習プリント

自分の考えを創り

①前時までの学習の振り返り

- ・3人の筆者の主張を読み取ったこと。
- ・変化した言葉や新しい言葉を身の回りから探したこと。
- ・変化した言葉や新しい言葉に対する違和感について考え、話し合ったこと。

②考えの例示

「言葉の正しい使い方を知って正しく使いたい」

「時と場合による。例えば…」など、考え方の例を示す。

テキストを読み返して引用することにより、テキストの筆者の考えと自分の考えの共通点や相違点に気付かせた。

《生徒の変容》

読解力の要素	実際の学習活動	生徒の変容	
「創り出すー表す」	(前時) 言葉への違和感について意見交換する。	知っている言葉には違和感をもたないと思っていた。	言葉への感覚は人それぞれに違うことに気付き、自分の感覚を見直していた。
「創り出すー表す」	前時の意見交換を踏まえ、構成メモを用いて、意見を創り出す。	事実と意見、根拠と主張がいまいに混在していた。	構成メモの項目立てに従って論理的に思考し、表していた。
		自分の考えをもつことができなかった。	容易に自分の考えを創り出していた。
「まとめるー読む」	自分の考えに近い主張を、テキストから引用する。	それぞれのテキストの内容を単純に取り出して比較していた。	それぞれのテキストの内容を自分の考えに照らして解釈し、比較していた。
「創り出すー表す」	(次時) 言葉についての意見発表会を行う。	自分の考えを述べる意欲が乏しかった。	多様な見方や考え方があることに気付き、自分の考えを自信をもって言えるようになった。

《読解力の構成要素「創り出す」に着目した授業を行ったことによる成果》

- ・ テキストの内容を表にまとめて比較したり、自分の知識や経験に照らしたりして深く理解することが、自分の考えを「創り出す」力の育成に資する。
- ・ 学習の過程で、自分の解釈や自分の考えを伝え合うことにより、自他の共通点や相違点が分かり、自分の考えがより明確に創り出される。
- ・ 「創り出す」学習活動の中に、テキストの内容を振り返らせるような課題を組み入れることにより、テキストの理解が深まるとともに、批判的な読みも促進される。
- ・ 「創り出す」学習活動を年間指導計画に位置付け、その学習を繰り返す行うことで、読解力の育成とともに、学力向上にも効果的である。

読解力育成のための単元指導計画（高等学校「国語総合（１年を想定）」）

① 単元名 論の展開を正しくたどり、筆者の主張を読み取る（教材名「水の東西」山崎正和）

② 本単元における読解力育成の目標

〈読む活動〉

創り出す：東西の文化の違いを知識や経験を結び付けて、水に対する自分の意見を書く。

〈表す活動〉

まとめる：水に対する描写から、筆者の判断の論拠をとらえ自分の感性との比較をする。

創り出す：自分の意見を聞き手が納得するように工夫しながら適切に言葉を選び発表する。

③ 単元の指導計画（全４時間）

時	読解力に着目した教科の目標	主な学習活動	指導内容	テキスト	読解力の要素					
					読む			表す		
					取	ま	創	取	ま	創
1	テキストの内容を正確にとらえ、筆者の考えを理解し、感性の違いを比較する。	・テキストを読み、「鹿おどし」と「噴水」の違いを筆者の言葉から把握する。	Cア	教材文	○					
2	テキストに書かれた、筆者が判断した論拠に着目し、水に関する自分の考えをもつ。	・描写をとらえて、筆者の判断の論拠となっている語句を抜き出す。 ・流れる水と噴き上げる水の特徴をとらえる。 ・筆者と自分の感性を比較し、表現する。	Cア Cア Bア	教材文	○					○
3	テキストを踏まえて、美に対する感性の違いや文章の説得力についての考えをもつ。	・東洋と西洋の美に対する感性の違いを比較する。 ・この文章がもつ説得力はどこから生まれるものかを考えてまとめる。	Cア Cエ Bイ	教材文	○				○	
4	評論文の客観性についての考えを伝え合う。 【本時】	・国語辞典を用い、「客観性」について考察する。 ・評論文における客観性について、自分の考えを書き、発表する。 ・発表された意見を基に話し合い、「評論文における客観性」を定義する。	言イ Bイ Aア Aイ Aウ	教材文 辞書		○				○

④ 本時の指導（第４時／全４時間）

○創り出す

テキストの内容と自分の知識や経験を結び付けて読み、新たな意見をもつ。
新たに創出した自分の意見を、適切に言葉を選んで分かりやすく表現する。

ア 教科としての本時のねらい

- ・テキストを批判的に読み、「評論文における客観性」について考察し、自分なりの意見をもつ。
- ・他の意見を聞いて話し合い、クラス全体の意見を構築する。

イ 本時の展開

学習活動	○評価規準【領域と内容】■指導上の留意点
1 本時の学習内容を確認する。	○ 論理的な構成を工夫して、テキストの内容を基に自分の考えを文章にまとめている。【Bイ】 ○ 「評論文における客観性」について自分の考えをもち、筋道を立てて意見を述べている。【Aア】 ■ 幾つかの国語辞典の「客観性」についての記述を板書させて比較しながら、「客観性」とは何かを定義する。
2 国語辞典を用い、「客観性」という言葉について改めて調べる。	
3 前時にまとめた、この文章の「説得力」から、「評論文における客観性」について考え、自分の意見を書く。	
4 代表者が意見を発表する。	○ 聞くときに話し手の意図をとらえ、必要なことを聞き取り、話し手に対して確認している。【Aイ】 ○ 「評論文における客観性」とは何かを定義するため、自分の意見を根拠をもって説明するとともに、相手の立場や考えを尊重して話し合っている。【Aウ】
5 発表を基に話し合い、「評論文における客観性」を定義する。	
6 学習のまとめ 文化論的評論文の読み方を確認する。	

2 算数・数学科 **読解力育成のための単元指導計画（小学校第1学年 算数）**

① 単元名 「かずをくらべよう」

② 本単元における読解力育成の目標

＜読む活動＞ 取り出す：問題を理解し、解決に必要な集合を見付け出す。

まとめる：1対1対応の操作を基に、個数の多少を判断する。

創り出す：1対1対応による数の多少の別の比べ方を知る。

＜表す活動＞ 取り出す：問題を理解し、解決に必要な集合を示す。

まとめる：1対1対応の操作を行う。また、比べた個数の多少の結果を表現する。

創り出す：1対1対応による数の多少をいろいろな集合について調べる。

③ 単元の指導計画（全3時間）

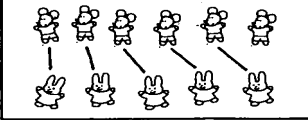
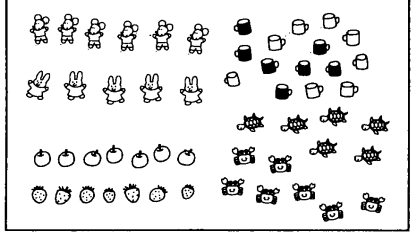
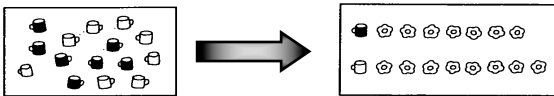
時	読解力に着目した教科の目標	主な学習活動	指導内容	テキスト	読解力の要素					
					読む			表す		
					取	ま	創	取	ま	創
1・2	いろいろな観点や条件に応じて、集合をつくる。	・テキストとなる絵や身の回りの具体物について観点や条件を決めて集合をつくる。	A (1)	絵 友達の考え	○	○	○	○	○	○
3	1対1対応により数の大小を判断する。 【本時】	・二つの集合の要素について数の個数を比較する。	A (1)	絵 友達の考え	○	○	○	○	○	○

④ 本時の指導（第3時／全3時間）

ア 教科としての本時のねらい

・1対1対応により2つの集合の個数の多少を比べ、数の多少の意味を理解することができる。

イ 本時の展開

学習活動	○評価規準 ■指導上の留意点
取り出す場面 1 問題の把握と解決の計画 <問題> 「ねずみ」と「うさぎ」では、どちらがおおいかわらべましょう。 どのようにすれば、どちらが多いか比べられるでしょうか。 ・線で結ぶ ・丸で囲む ・数える	○絵の中から問題に必要な2つの集合を取り出し、比べる方法に気付く。 ■絵の中から、「ねずみ」と「うさぎ」の集合について比べることを読み取らせる。（読む活動） ■数の多少を比べる方法について気付いたことを発言させる。（表す活動）
まとめる場面 2 解決の実行 先生と一緒に、1つずつ線で結んでみましょう。  ・ねずみが余った ・ねずみが多い ・うさぎが少ない 「りんご」と「いちご」では、どちらが多いか比べましょう。 （略）	テキスト  ○「ねずみ」と「うさぎ」について、線で結んで数の多少を比べる。 ■全員で確かめながら、「ねずみ」と「うさぎ」を一つずつ線で結ぶ操作をさせる。（表す活動） ■「ねずみ」と「うさぎ」では、どちらが多いかを、線を結んだ結果から読み取る。（読む活動） ■「りんご」と「いちご」の多少について、自力で比べさせる。（表す・読む活動）
創り出す場面 3 まとめと発展 「黒いカップ」と「白いカップ」では、どちらが多いか比べましょう。 「かめ」と「かに」では、どちらが多いか比べましょう。  ・（おはじきをおいて比べる） ・白いカップが余った ・白いカップが多い ・黒いカップが少ない （略）	○1対1対応の操作には複数の方法があることが分かる。 ■線で結ぶ方法では分かりづらい場合に、おはじきに置き換えた間接的な方法で数の多少を比べる方法を知る。（読む活動） ■全員で確かめながら、「黒いカップ」と「白いカップ」の多少をおはじきで比べさせる。（表す活動） ■「かめ」と「かに」の多少について、自力で比べさせる。（表す・読む活動）

読解力育成のための単元指導計画（小学校第4学年 算数）

- ① 単元名 「変わり方調べ」
- ② 本単元における読解力育成の目標

＜読む活動＞ 取り出す：図を基に問題を明確に読み取り、解決の方略を見付ける。
まとめる：図や表に整理して、変わり方のきまりを見付けることができる。
創り出す：見付けたきまりや考え方を使って別の数、また新たに課題解決できる。

＜表す活動＞ 取り出す：式、図、表に置き換えて順序よく調べ、解決することを示す。
まとめる：調べたことを図や表に置き換えて整理して、表す。また、見付けたきまりを発表する。
創り出す：いろいろな数について調べたり、新たな事象に適用し、調べたりする。

③ 単元の指導計画（全4時間）

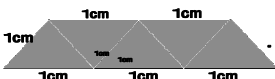
時	読解力に着目した 教科の目標	主な学習活動	指導 内容	テキ スト	読解力の要素					
					読む			表す		
					取	ま	創	取	ま	創
1 ・ 2	伴って変わる2量の関係（和が一 定）を考察する。	・表裏の時計盤の針がさす時刻関係に ついて、表や式に表して調べる。	D(1) イ	問 題 文、式 図、表	○	○	○		○	○
3 ・ 4	伴って変わる二つの数量の関係（差 が一定）を考察する。 【本時】	・正三角形を1列に組み合わせていく ときの、個数と周りの長さの関係を表 や式に表して調べる。	D(1) D(3)	問 題 文、式 図、表	○	○	○		○	○

④ 本時の指導（第3時／全4時間）

ア 教科としての本時のねらい

- ・伴って変わる2つの数の関係を図や表で読み取り、変わり方のきまりを見付けることができる。

イ 本時の展開

学習活動	○評価規準 ■指導上の留意点												
取り出す場面 1 問題の把握と解決の計画 テキスト  <問題>正三角形が1列に並んでいくとき、正三角形の数が増え ると、まわりの長さはどのように変わるか調べましょう。 どのように変わり方を調べたらよいでしょうか。 - 正三角形1個の場合から順に考えていく。 - 正三角形5個くらいまでの情報を集める。 - 表にして分かりやすく整理する。	○問題の解決に必要な方略を見付ける。 ■前時に学習した内容を基にしてやればよいことを読み取る。(読む活動) ■既習事項を基にして、まわりの長さを求めるためにはどのように学習を進めればよいか示させる。(表す活動)												
まとめる場面 2 解決の実行と比較 正三角形の数とまわりの長さの関係を表に整理し、どのようなことがいえるか考えましょう。 - 正三角形が1個増えると、まわりの長さは1cm増える。 - 正三角形の数に2をたすと、まわりの長さになる。 - まわりの長さから2ひくと、正三角形の数になる。 正三角形を□、まわりの長さを○として式に表してみよう。 ○=□+2 □=○-2	○表に整理した情報を基に、自分できまりを見付け、発表する。 ■きまりを見付け、課題を解決できるようにする。(読む活動) <table><tr><td>正三角形の数(個)</td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td></tr><tr><td>まわりの長さ(cm)</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td></tr></table> ■自力解決で見いだしたことを発表し、変化の様子を話し合い、きまりを見付ける。(表す活動)	正三角形の数(個)	1	2	3	4	5	まわりの長さ(cm)	3	4	5	6	7
正三角形の数(個)	1	2	3	4	5								
まわりの長さ(cm)	3	4	5	6	7								
創り出す場面 3 まとめ 今日の学習を基に、正三角形がいろいろな場合のときの、まわりの長さが何cmか求めましょう。 - 正三角形30個の場合は、30+2=32で32cmだ。 - このきまりを使えば、正三角形が何個でも求められる。 - 正方形や二等辺三角形、長方形が繋がった場合はどうだろう。	○学習したことを基に、いろいろな場合について考える。(読む活動) ■学習してきたことを基にすれば、解決できる課題を提示し、他の課題にも適用できることに気付くことができるよう促す。(読む活動)												

読解力育成のための単元指導計画（小学校第6学年 算数）

① 単元名 「比例」

② 本単元における読解力育成の目標

<読む活動>

取り出す：問題を明確にし、読み取り、既習を基に解決のための方略を見付ける。

まとめる：友だちの考えとの異同を確かめ、きまりを読み取る。また、意味・性質を理解する。

創り出す：学習したことを他の事象に適用し、比例の規則性を読み取る。

<表す活動>

取り出す：図・表・式・グラフ等を基に、解決を進めるための方略を示す。

まとめる：比例の関係性や規則性について、図・表、式やグラフを使ってその過程や根拠を説明する。

創り出す：比例の規則性を他の新たな事象に適用し、調べたり、確かめたりする。

③ 単元の指導計画（全7時間）

時	読解力に着目した教科の目標	主な学習活動	指導内容	テキスト	読解力の要素					
					読む			表す		
					取	ま	創	取	ま	創
1	調べた結果を基に、比例	・読み取った事象の変化の仕方を調べ、変	D(4)	問題文	○	○			○	○
2	・の意味・性質を理解する。 【本時】	わり方のきまりを見付ける。		図、表			○			○
3	比例の関係を判定し、問	・比例の関係に着目して問題を解く。	D(4)	問題文	○	○			○	○
7	題解決する。 比例の関係をグラフに表 し考察する。	・比例の関係をグラフに表し、その特徴を調べる。 ・生活の中から「一方が変わればもう一方も変わる」2つの量を数例見付ける。		表、図、式 グラフ						

④ 本時の指導（第1時／全7時間）

ア 教科としての本時のねらい

- ・伴って変わる2つの数量をくらべ、きまりを見付けることができる。

イ 本時の展開

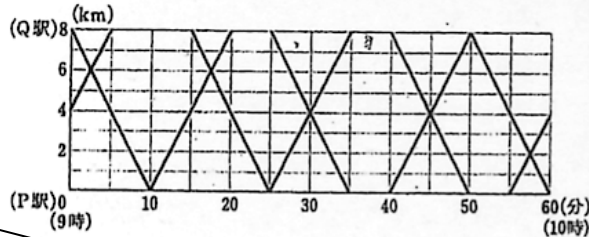
学習活動	○評価規準 ■指導上の留意点														
取り出す場面 1 問題の把握と解決の計画 ＜問題＞ 水槽に水を入れるとき、水を入れる時間が長くなると、水の深さはどのように変わるか調べましょう。 どのように変わりを調べたらよいでしょうか。 1分ごとにデータを集める 6分くらいまでのデータを集めれば分かる - 表にして整理する	○問題の解決に必要な方略を見付ける。 ■調べる時間、必要なデータ数、整理する方法等、問題解決の手段を考えさせる（表す活動）														
まとめる場面 2 解決の実行と比較・検討 変わりを調べ、きまりを見付けましょう。 - 時間が1分増えると、4cmずつ水の深さが増す - 時間が2倍、3倍…になると水の深さも2倍、3倍…になる - 時間が1/2、1/3…になると深さも1/2、1/3…になる	○整理した表を基に、伴って変わる2量の関係性を明らかにして自分で解決することができる。 ■時間経過と水の深さを調べ、表を使ってデータを整理させる。表を基に見付けたきまりを説明させる。（表す活動） <table><tr><td>水を入れる時間（分）</td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td></tr><tr><td>水の深さ（cm）</td><td>4</td><td>8</td><td>12</td><td>16</td><td>20</td><td>24</td></tr></table>	水を入れる時間（分）	1	2	3	4	5	6	水の深さ（cm）	4	8	12	16	20	24
水を入れる時間（分）	1	2	3	4	5	6									
水の深さ（cm）	4	8	12	16	20	24									
創り出す場面 3 まとめ 水槽に水を入れるときの時間と水の深さのように、一方が増えると、もう一方も増えるものを探しましょう。 - 線香を燃やす時間と燃えた長さ - バスケットボールのシュートの数と得点 - 先生の年齢と子供たちの年齢	○本時の学習を基に、生活の中から「一方が変わればもう一方も変わる」2量を見付ける。 ■学んだことを基に、生活の具体的な事象で適用できるよう課題を提示する。（読む・表す活動） *比例の事例と比例でない事例を取り上げ、次以降に比例の意味を検討する際の事象とする。														

読解力育成のための単元指導計画（中学校第2学年 数学）

- ① 単元名 「一次関数」
- ② 本単元における読解力育成の目標
- ＜読む活動＞ 取り出す：テキストの内容から、関数関係を見いだすことができる。
まとめる：テキストから見いだした関数関係について考察することができる。
創り出す：一次関数の変化の割合とグラフの特徴を利用することができる。
- ＜表す活動＞ 取り出す：テキストの内容から、関数関係を見いだして表すことができる。
まとめる：テキストの内容から見いだした関数関係を、式や表、グラフに表すことができる。
創り出す：一次関数の特徴を利用し、式や表、グラフに表すことができる。
- ③ 単元の指導計画（全13時間）

時	読解力に着目した教科の目標	主な学習活動	指導内容	テキスト	読解力の要素					
					読む			表す		
					取	ま	創	取	ま	創
1 ・ 2	一次関数の意味を理解し、テキストの中から一次関数を見だし、式に表すことができる。	・関数関係が明らかになると、それを用いて事象を予測することができるという、関数の考えのよさに気付く。	C(1)	問題文	○	○				
3	変化の割合を理解し、それを求めることができる。	・一次関数の特徴として、変化の割合が一定であることが分かる。	C(1)	問題文	○	○				
4 7	一次関数のグラフをかくことができる。	・一次関数の特徴を、グラフから見直すことができる。	C(1)	問題文、グラフ、表、図、式				○	○	
8	与えられた条件から1次関数を求めることができる。	・一次関数の式を決定するために何が分かればよいかを考える。	C(1)	問題文、グラフ、表、図、式	○				○	○
9 13	具体的な事象を1次関数で表したり、グラフを利用して問題を解いたりすることができる。 【本時】	・グラフをかきながら、具体的な場面を考える。 ・与えられた問題文から必要なデータを引き出し、グラフをかくて答えを求める。	C(1)	問題文、グラフ、表、図、式		○	○		○	○

- ④ 本時の指導（第13時／全13時間）
- ア 教科としての本時のねらい
- ・関数の特徴を、グラフを用いて考察することができる。
 - ・具体的な事象を一次関数で表したり、グラフを利用して問題を解いたりすることができる。
- イ 本時の展開

学習活動	○評価規準 ■指導上の留意点
取り出す場面 1 問題の把握と解決の計画 ＜問題＞ 図は、8 km 離れた P 駅と Q 駅の間の 9 時から 10 時までの電車の運行の様子を表したグラフである。 A さんは、9 時 5 分に P 駅を出発して、時速 12 km の自転車で線路沿いの道を Q 駅まで行きました。A さんが Q 駅に着くまでに、Q 駅から来る電車に何回出会いましたか。	テキスト  ○テキストから解決に必要な情報を読み取ることができる。 ■ダイヤグラムを読み取ることとおして、ダイヤグラムに慣れさせたいので、それを基にして、必要な情報を取り出せるようにする。（読む活動）
まとめる場面 2 解決の実行と比較・検討 A さんの行動を、グラフに表しましょう。 ・グラフに、9 時 5 分に P 駅を出発し、時速 12 km で Q 駅に到着した A さんの行動を、グラフに表す。 ・グラフから、Q 駅から P 駅に向かう電車の中で、A さんと出会う電車を見ける。	○グラフに整理した情報を基に、関数の関係を明らかにして自分で解決することができる。 ■テキストから読み取った、A さんの動きと時間の関係を、ダイヤグラム上に一次関数の関係として表せるようにする。（表す活動）
創り出す場面 3 まとめ 新しい問題を考えることができる。 A さんが、Q 駅から来る電車に最初に出会うのは、何時何分ですか。 ・A さんのグラフと、最初に A さんが出会う Q 駅から来る電車のグラフを、それぞれ式に表す。 ・このグラフを応用しながら、新しい問題について考えることができる。	○一次関数の変化の割合やグラフの特徴を利用し、式や表、グラフ、言葉などで表現する。 ■学んだことを基に、異なる事例でも適用できるような課題を提示する。（読む・表す活動）

読解力育成のための単元指導計画（高等学校 数学Ⅰ）

① 単元名 「二次関数とそのグラフ」

② 本単元における読解力育成の目標

<読む活動>

取り出す：対応関係から y の変化の規則性を見いだすことができる。

まとめる：二次関数の式からグラフの特徴を述べることができる。

創り出す：二次関数の式からグラフの概形を述べることができる。

<表す活動>

取り出す：対応関係から異なる特徴をもつグラフをかくことができる。

まとめる：二次関数の式からグラフの特徴をつかみ、その概形をかくことができる。

③ 単元の指導計画（全 12 時間）

時	読解力に着目した 教科の目標	主な学習活動	指導 内容	テキスト	読解力の要素					
					読む			表す		
					取	ま	創	取	ま	創
1 2	関数の概念を、一方が決まると他方がただ 1 つ決まるという対応関係として理解できる。	・対応表を用いて変数 x に対する変数 y の変化量の規則性を見付ける。 ・変数 x に伴って変化する変数を y として、 y を x の関数として定義する。	(2)ア	問題文 式 表 グラフ	○	○	○			
3 10	関数の式から二次関数のグラフを平行移動するための方法を見つけることができる。【本時】	・関数の式から、グラフを平行移動させてかく。 ・平方の完成によりに平行移動した二次関数のグラフをかく。	(2)ア	問題文 式 表 グラフ	○		○	○	○	
11 12	二次関数のグラフの条件から、その条件を満たす二次関数の式を決定できる。	・頂点や軸などについての条件から二次関数を決定する。	(2)ア	問題文 式 表 グラフ		○		○		

④ 本時の指導（第 4 時／全 12 時間）

ア 教科としての本時のねらい

- ・具体的な二次関数のグラフ(y 軸方向に平行移動したもの)をかけるようにする。

イ 本時の展開

学習活動	○評価規準 ■指導上の留意点
読む 取り出す場面 1 $2x^2$ と $2x^2 + 3$ の値を求め、対応表からそれぞれの y の値の変化の規則性を見いだす。	○対応表より同じ x の値に対して $2x^2 + 3$ の値の方が、 $2x^2$ より常に 3 だけ大きくなっていることに気付くことができる。
表す 取り出す場面 2 $y = 2x^2 + 3$ のグラフをかき、 $y = 2x^2$ のグラフと比較する。 $y = 2x^2 + 3$ のグラフは、 $y = 2x^2$ のグラフを y 軸方向に 3 だけ平行移動したグラフになることを理解する。	■座標平面に打った点と点を滑らかな曲線で結ぶ。 ○上記の特徴がグラフを平行移動する時の条件になることに気付かせる。
表す まとめる場面 3 $y = 2x^2 + b$ の b の値の部分に +3 以外に設定し、実際にグラフを何通りかかき、数値の変化とグラフの平行移動との関係に規則性を見いだす。	○グラフを平行移動する時の条件については、他の数値でも同様になることがわかる。
読む 創り出す場面 4 $y = ax^2 + q$ のグラフは $y = ax^2$ のグラフを y 軸方向に q だけ平行移動したグラフになり、軸は y 軸、頂点は点 $(0, q)$ であることを理解する。	○ q の値が異なる場合でも、 $y = ax^2 + q$ のグラフを平行移動することができる。

V 研究の成果及び課題

1 研究の成果

本研究では、児童・生徒の「読解力」の向上を目指し、小学校から高等学校まで、学習指導要領を基に学習の段階に着目し、それぞれの到達目標（目指す児童・生徒の姿）を設定するとともに、各学校の教育課程の編成や授業改善に資するための具体的な単元指導計画を作成するための指導資料の開発と具体的な単元指導計画案を例示することをねらいとして研究を進めてきた。開発した指導資料については以下のとおりである。

(1) 学習段階における目指すべき「読解力の到達目標」の明確化【資料1】

目指す読解力を明らかにするため、学習指導要領の詳細な分析し、それぞれの学習の段階において児童・生徒に身に付けさせたい力を表した。

(2) 国語科及び算数・数学科における「読解力の到達目標」の設定【資料2】

国語科及び算数・数学科において、各学習段階における「読解力の到達目標」を設定し、さらに国語科については、その目標とともに構成要素ごとに学習指導要領等に記載された指導内容を示した。

(3) 「読解力」を重視した学習段階別の具体的な学習活動の例示【資料3】

様々な学習活動において、工夫する視点を例示した。国語科においては単元の指導計画を作成する際、ここで挙げた学習活動例を参考に「読解力」育成に着目した授業の工夫が可能である。また、算数・数学科においては、ここで示した「読解力」育成の視点を、他の内容においても生かしながら授業を行うことで、「読解力」育成を意識した授業の計画が可能である。

(4) 「読解力」育成に着目した国語科及び算数・数学科における単元指導計画の提案

「読解力」育成の視点をもった授業を学習段階ごとに例示した。読解力は一回の授業で身に付く力ではない。明確な目標の下、継続的に学習することが大切である。さらに、他教科で工夫する際の視点としても活用することが可能な指導計画となっている。

本研究で開発した指導資料に基づいて作成した単元指導計画により授業実践をしたところ、児童・生徒に「創り出す」能力において着実な変容がみられた。今年度開発した指導資料を基に授業を実践すれば、「読解力」育成の視点をもった授業が創造でき、児童・生徒の学力向上を図ることができると思う。

2 今後の課題

次の2点についてさらに研究をすすめる必要がある。

(1) 他のすべての教科における指導の工夫の方向性について

読解力は、すべての教育活動で培われる力であり、今回の研究の対象にできなかった他の教科等でも工夫をするための方向性を示していくこと。

(2) より多くの実践をすることによる開発資料の有効性の検証

本研究の成果を踏まえて、多くの単元指導計画の作成・実践を繰り返し、「読解力」の育成に向けた有効性をさらに検証していくこと。

〈指導資料集〉

【資料1】

各学習段階において目指す「読解力の到達目標」及びその構成要素ごとの学習活動

学習段階	内容項目	目指す「読解力の到達目標」	構成要素ごとの学習活動		
			取り出す	まとめる	創り出す
小学校低学年		順序に着目してテキストの大体を理解し自分の考えをもち、それを楽しんで表す力。	・テキストから順序よく情報を見付ける。	・テキストの内容の大体を理解する。	・テキストの内容から自分の考えをもち表現することを楽しむ。
小学校中学年		テキストの正確な理解及び必要な情報の適切な選択を行い、その相違点や共通点を比較しながら、経験を生かして自分なりに考えを表す力。	・テキストから必要な情報を適切に選択する。	・テキストに表された事象の相違点や共通点を整理し正しく理解する。	・テキストから理解したことと自分の経験を比較しながら自分なりの考えをもつ。
小学校高学年		テキストを目的や意図に応じて関係付け、自分の意見を根拠を明らかにしながら、経験を生かして効果的に表す力。	・目的や意図に応じて、テキストから必要な情報を見付け出す。	・目的や意図に応じて、情報を関係付けて内容を的確に理解する。	・テキストから根拠を明らかにし、筋道立てて自分の考えを深める。
中学校一学年		様々な種類のテキストから必要な情報を取り出し、情報を整理したり比較して、自らのものの見方や考え方を広げる力。	・様々な種類のテキストから必要な情報を取り出す。	・情報を整理したり比較して、関係を見だし表現し考察する。	・考察し、理解したことを基に、自らのものの見方や考え方を広げる。
中学校二学年		自らの目的に応じてテキストから情報を取り出し、論理的に考察して、目的を達成するために効果的に活用する力。	・目的に応じて広い範囲から情報を取り出す。	・情報を論理的に確かめたり、推論の過程を的確に表現したりする。	・考察し、理解したことを、目的の達成のために効果的に活用する。
中学校三学年		自らの目的に応じてテキストから情報を取り出し、様々な観点から吟味し、論理的に判断して、目的を達成するために能率的に活用する力。	・広い範囲から自己の課題に即した情報を取り出す。	・情報を多面的、多角的に考察し、見通しをもって論理的に判断する。	・考察し、判断したことを、目的の達成のために能率的に活用する。
高等学校		テキストを複数の視点から、論理的に関連付けて整理することで物事の本質をとらえ、課題を主体的に解決する力。	・様々な視点をもって事象を分析し、情報の本質をとらえる。	・複数の情報を論理的に関連付けて整理し、合理的に判断する。	・情報を効果的に活用して新たな課題を発見したり、課題を主体的に解決したりする。

【資料２】

国語科における「読解力の到達目標」(指導内容を含む)

		取り出す		まとめる		創り出す	
		読む活動	表す活動	読む活動	表す活動	読む活動	表す活動
小学校低学年	到達目標	テキストに書かれた事柄の順序に着目して情報を見付け出すことができる。	テキストに書かれた事柄の順序に着目して表現できる。	テキストに書かれた事柄の順序に着目して内容の大体を理解できる。	理解したことを順序よく表現できる。	テキストを楽しんで読むとともに、自分の考えをもつことができる。	テキストの内容を基にして、自分の考えをはっきりと表現することができる。
	指導内容	Aイ・Cイ	Aア・Bウ・Bエ	Bイ・Cイ・Cウ	Aア・Bイ・Bエ・Bオ	Aイ・Aウ・Cア	Aア・Aイ・Aウ・Bア
小学校中学年	到達目標	テキストから目的に合った情報を見付け出すことができる。	目的に合わせてテキストから見付け出した情報を正確に表現できる。	テキストの段落相互の関係に着目して内容を正確に理解できる。	テキストから理解したことを段落相互の関係に注意して表現できる。	自分の考えをまとめるとともに、自他の考えの違いに気付くことができる。	テキストの内容を基に、自分の考えの中心を明らかにして表現できる。
	指導内容	Bイ・Bオ・Cア・Cイ	Bイ・Bオ・Bエ	Cイ・Cウ・Cオ	Bウ・Bエ・Bオ	Aイ・Aウ・Cエ	Aア・Aイ・Aウ・Bア
小学校高学年	到達目標	テキストから目的に応じて見付け出した情報を整理できる。	目的に応じてテキストから整理した情報を明確に表現できる。	目的や意図に応じて内容を的確に理解できる。	テキストから理解したことを事象と感想、意見に区別して表現できる。	テキストの事象から根拠を見だし、自分の考えを明確にもつことができる。	テキストの内容を基にして、自分の考えを筋道を立てて明確に表現できる。
	指導内容	Cイ・Cオ	Bイ・Cイ	Cイ・Cエ	Bウ・Bエ・Cエ	Cエ	Aア・Bア・Bエ・Bオ・Cエ
中学校一学年	到達目標	様々なテキストから目的に応じて必要な情報を選択し、整理できる。	目的に応じて、様々なテキストから必要な情報を整理して明確に表現できる。	テキストの展開に即して原因や根拠をとらえ主題や要旨を解釈することができる。	テキストから解釈したことを根拠を明らかにして表現できる。	テキストの書き手のものの見方や考え方をとらえ、自分のものの見方や考え方と対比させて、自分の意見をもつことができる。	テキストの内容を基にして、自分のものの見方や考え方を的確に表現できる。
	指導内容	Cイ・Cウ・Cカ	Bア・Bイ・Cカ	Cア・Cウ	Bウ・Cイ・Cエ	Cオ	Aア・Bア・Cオ
中学校二学年三学年	到達目標	広い範囲のテキストから自らの目的に応じて情報を集め、分類、整理できる。	自らの目的に応じて広い範囲のテキストから情報を分類、整理し、的確に表現できる。	書き手の論理の展開の仕方を的確にとらえ主題や要旨を解釈できる。	テキストから解釈したことを論理的に表現できる。	テキストの内容を自分の知識や経験に照らして読み、人間、社会、自然等について新たな意見をもつことができる。	テキストに対して、自分の考えを、根拠を明らかに表現できる。
	指導内容	Cイ	Bア・Cオ	Cア・Cイ・Cウ・Cエ・言エ	Bイ・Cウ・Cエ	Cイ・Cエ	Bイ・Bエ・Cオ
高等学校	到達目標	テキストの特性に応じて様々な視点から情報を分類、整理できる。	テキストの特性に応じて、様々な視点から分類、整理し、効果的に表現できる。	テキストの内容を適切に要約しながら読み、書き手の意図や主張を解釈することができる。	テキストから解釈したことを確実な論拠に基づいて表現できる。	テキストの内容を知識や経験に照らして批判的に読み、人間、社会、自然等について自分の考えを広げたり、深めたりできる。	テキストに対して、自分の主張を明確にし、確実な論拠に基づいて表現できる。
	指導内容	Cア・Cイ・言イ	Aア・Bア	Bア・Cア・Cウ・Cイ・言イ	Aイ・Bイ・Cエ・言ア	Aイ・Aウ・Bイ・Bウ・Cエ	Aア・Aウ・Bイ・Bウ・Cア・言ア

算数・数学科における「読解力の到達目標」

		取り出す		まとめる		創り出す	
		読む活動	表す活動	読む活動	表す活動	読む活動	表す活動
小学校低学年	到達目標	課題を正しく理解することができる。	正しく理解したことを表現することができる。	自分なりの方法で課題を解決することができる。	解決したことを自分なりの表現で表すことができる。	解決したことを基に他の課題の解決の仕方について自分の考えをもつことができる。	新たな課題解決への考えを自分なりに表現することができる。
小学校中学年	到達目標	テキストの情報を正しく理解できる。	テキストから取り出した情報を図や表に置き換えることができる。	テキストの情報を共通点や相違点に着目し、整理して、きまりを見いだすことができる。	情報を図や表に置き換えて整理し、見いだしたきまりを表したり、発表したりできる。	他の事象や身近な事象へ見いだしたきまりを適用できる。	見いだしたきまりや考え方をを使って、どのように課題を解決したか説明できる。
小学校高学年	到達目標	テキストから目的に応じて情報を収集できる。	テキストから目的に応じて収集した情報を図や表に置き換えることができる。	テキストから事象にある関係性や規則性を見だし、課題解決のための考えをもつことができる。	見いだした関係性や規則性について、根拠をもって表したり、発表したりできる。	見いだしたきまりを他の事象に適用したり、きまりを適用できる事象を見付けることができる。	考察から導き出した課題解決の方法について筋道を立てて説明できる。
中学校一学年	到達目標	目的に応じてテキストから必要な情報を取り出すことができる。	テキストから必要な情報を取り出して表現できる。	テキストの情報を整理し、数学的な関係を見だし、考察することができる。	テキストの情報に考察を加えたものを表現できる。	考察結果から、数学的なものの見方や考え方を広げることができる。	考察結果から、数学的なものの見方や考え方を広げ、まとめた考えを簡潔に表現することができる。
中学校二学年	到達目標	目的に応じてテキストから情報を取り出して整理することができる。	目的に応じて取り出した情報を整理し、正しく表現できる。	取り出した情報を論理的に考察し、解釈することができる。	取り出した情報を論理的に考察し、解釈を加えて表すことができる。	自分の知識や経験を基に論理的に構成したものを効果的に活用することができる。	論理的に構成したものを効果的に表現することができる。
中学校三学年	到達目標	目的に応じて自己の課題に即した情報を取り出して分析することができる。	自己の課題に即して取り出して分析した情報を正しく表現することができる。	取り出した情報を多角的に考察し、論理的に解釈することができる。	取り出した情報を多角的に考察し、論理的な解釈を加えて表すことができる。	論理的に構成したものを能率的に活用することができる。	論理的に構成したものを能率的に表現することができる。
高等学校	到達目標	テキストから数学の様々な概念や原理・原則を理解できる。	数学を用いて客観的、論理的に物事を説明できる。	直観、類推、帰納、演繹等数学的な見方や考え方を正確に理解して、いろいろな視点から問題解決に利用できる。	数学的な見方や考え方を積極的に活用して解決への手順を説明できる。	具体的な事象や不確定な事象の問題の内容を論理的に考察し、自らの創意工夫した方法が適切かを判断して解決できる。	具体的な事象や不確定な事象の問題を論理的に分析、整理し、解決した見方や考え方を自分の言葉で説明したり、表現したりできる。

国語科における「読解力」を重視した具体的な学習指導例一覧

(小学校第1学年)

主な使用教材	読解力向上のための実際の学習活動	テキストの例	読む			表す			指導内容
			取	ま	創	取	ま	創	
説明的文章	教材文や挿絵、写真などを手掛けりにして、出てくるものの違いについて比べながら読む。 指導事例 第2・3時	教材文 挿絵・写真	○						Cイ
	教科書の例にならい、大事なところを落とさないように書く。 指導事例 第4・5時	教材文				○			Bウ
	与えられたテーマについて、自分の知っていることを思い出したり、図鑑で調べたりする。 指導事例 第6・7時	図鑑・事物 経験		○					Bイ
	友達が調べたことの発表を聞く。 指導事例 第9時	友達の発表			○				Aイ
	調べたことで図鑑などを作り、友達に紹介する。 指導事例 第8・10時	自分の作品など						○	Bア
文学的文章	粗筋をおさえながらいろいろな音読の方法で読む。	教材文 挿絵	○						Cイ
	場面ごとに想像を膨らませて話し合いをする。	教材文 挿絵		○					Cウ
	話を読んで感じたことを手紙などの形にして書く。	教材文 挿絵					○		Bイ Bオ

(小学校第2学年)

主な使用教材	読解力向上のための実際の学習活動	テキストの例	読む			表す			指導内容
			取	ま	創	取	ま	創	
説明的文章	時間の経過を表す言葉や文章表現に着目しながら粗筋をつかむ。	教材文	○						Cイ
	文末表現に着目して事象と理由の説明を区別したり、説明の順序を意識したりして読む。	教材文	○						Aイ
	文章と絵を結び付けながら、書かれていることの順序を考え、内容の大体を読み取る。	教材文 挿絵 写真	○						Cイ
	教科書の題材について書かれた本を図書館で探し、興味をもったところを友達と紹介し合う。	図書館の本 図鑑		○					Bイ
	説明に必要な事柄を整理して組立てや順序に気を付けて説明文を書く。	説明書・絵 事物など				○			Aア
	教科書に書かれていることと自分の経験や観察したことなどを比べて書く。	教材文 経験 自然物					○		Bイ
	興味をもったことを本で調べ、カードにまとめる。	図書館の本 図鑑					○		Bイ Bウ
文学的文章	与えられた話題に沿って話し合いをする。	絵・自分の作品など				○			Aア
	場面や文のつながりを考えながら、必要な情報を整理してお話などを書く。	絵など				○			Bエ
	自分が考えたお話などを発表する。	絵本 絵 視聴覚教材						○	Bア
	友達の発表を良さに注目して聞く。	絵本 視聴覚教材						○	Aウ

(小学校第3学年)

主な使用教材	読解力向上のための実際の学習活動	テキストの例	読む			表す			指導内容
			取	ま	創	取	ま	創	
説明的文章	はじめの段落に示されている「問い」が何かを取り出す。	教材文	○						Cイ
	目的に応じてテキストからノートに書き出し整理する。	教材文 挿絵写真				○			Bエ
	段落ごとに書かれている内容を確認する。	教科書 資料		○					Cイ
	内容のまとまりに何が書いてあるかを、短い言葉や文で表す。	取材資料 資料					○		Bエ
	調べて分かったことを整理したり、事柄の順序を考えたりする。	教材文			○				Aイ
	難しい言葉は書き換えたり、説明を付けたりして、分かりやすく書く。	資料						○	Bア
その他の文章	テキストから知りたいことや疑問に思うことを取り出す。 調べたい課題とその理由を書く。	教材文 手紙 作文 資料	○			○			Bイ Bエ Cオ
	目的をもって調べ、話合いやテキストから、いろいろな見方、考え方を 知る。	教材文		○					Cオ
	調べたことの内容が分かるように事柄の順序を考えて話す。	教材文					○		Bウ
	調査結果から自分が分かったことを書く。	調査の分 析結果			○				Cエ
	絵や図、写真などを入れて、様子がよく伝わるように工夫しながら文 章にまとめる。	作品 資料						○	Bア

(小学校第4学年)

主な使用教材	読解力向上のための実際の学習活動	テキストの例	読む			表す			指導内容
			取	ま	創	取	ま	創	
説明的文章	まとまりごとの内容を正しく理解する。	教材文 挿絵 写真	○ ○						Bイ
	書かれている内容を正しく取り出す。 資料を参考にして、知りたいことを出し合う。	教材文 挿絵 写真				○ ○			Bエ Bイ
	テキストの段落の構成が分かる。 それぞれのまとまりは、いくつの段落からできているか調べる。 テキストの内容を目的に合わせて整理する。 段落同士がどのような関係でつながっているのかを考える。	教材文 挿絵 写真 資料		○ ○ ○ ○					Cイ Cウ Cオ
	目的や相手に合わせて知らせることを選び、文章にまとめる。	教材文 手引き					○		Bウ
	いろいろな「伝え合い」の方法や、人と深く分かり合うためにすること、 できることについて、話し合って考えを深める。	教材文 手引き 作品			○				Aウ
	まとめたことを知らせる文章を書く。 自分が調べたことや考えたことと友達の見解を比べて、感想を言う。	教材文 意見、作品						○ ○	Aア Aウ
	自分の課題を決めるための材料を集める。 テキストを参考にしながら自分の調べたいことを選び、課題を決める。	教材文 教科書資料 資料	○ ○						Cア Cイ
その他の文章	テキストを参考にして、もっと知りたいこと、自分で確かめたいこと などを書き出す。 調べることを決め、調べる方法を考える。	新聞記事等				○			Bイ Bエ Cオ
	自分の課題をもって調べる。 調べて分かったことの中から一番知らせたいことを選ぶ。 調べたこと、分かったことを整理する。	教科書資料 資料、 辞書、事典		○ ○				○	Cイ Cオ Bオ
	話し始めと結びを考え、発表全体を組み立てる。 聞く人の方を向いて話せるように、発表メモを工夫する。	分析結果 調査資料					○ ○		Bウ Bエ
	まとめたことを知らせる文章を書く。	分析結果 発表メモ						○	Bア Bエ
	互いに感想を交流して、考えを深める。 自分が調べたことや考えたことを友達の見解と比べて、感想を言う。	作品、 他者の意見						○ ○	Aウ

(小学校第5学年)

主な使用教材	読解力向上のための実際の学習活動	テキストの例	読む			表す			指導内容
			取	ま	創	取	ま	創	
説明的文章	形式段落ごとに大事な部分を取り出し、要約してまとめ、文章の構成を確かめる。	教材文 写真	○						Cイ Cオ
	筆者が読者に考えてもらいたいと思っていることが表れている部分を取り出す。自分の経験を振り返り、考えをまとめる。	教材文 写真		○					Cイ Cエ
	形式段落で大事なことが書かれている部分を取り出し、時間の順序が分かるように表に整理する。	教材文 資料等				○			Bイ Cイ
	発信したい情報を決め、取材・編集をする。	取材資料 原稿					○		Bウ Bエ
	筆者の思いや人の生き方が表れている文章にサイドラインを引き、ノートに整理する。	教材文 挿絵、写真	○						Cイ Cオ
	筆者の思いや人の生き方に対し、自分の経験や身の回りにいる人の生き方を振り返り、感じたことをまとめる。	教材文 ノート			○				Cエ
その他の文章	資料を読み、疑問やさらに知りたいことを書き出し、自分なりの課題を決める。	教材文 資料等			○				Cエ
	調査や研究を通して分かったことと、それに基づいて自分が考えたことを表に整理し、明確にする。	辞書等 インターネット アンケート					○		Bウ Bエ Cエ
	自分の考えが友達に伝わるように、書き方を工夫してレポートを書く。	表 文章						○	Bア Bエ
	発表会を通して、はっきりしたり、変化したり、深まったりした考えを書く。	発表 意見や感想						○	Bア Bエ

(小学校第6学年)

主な使用教材	読解力向上のための実際の学習内容	テキストの例	読む			表す			指導内容
			取	ま	創	取	ま	創	
説明的文章	文章中から、対比している内容を表す言葉や表現を取り出し、何が比べられているかを整理する。	教材文 写真・挿絵	○						Cイ Cオ
	筆者が、読者に考えてほしいと願っていることは何かを考え、文章全体を要約する。	教材文		○					Cイ Cエ
	資料から、自分が共感する部分、疑問をもった部分、もっと詳しく知りたい部分にサイドラインを引きながら読む。	教材文 資料・写真			○				Cエ
	筆者の考えについて、自分の考えを書く。	教材文 写真・挿絵						○	Bア Bエ
	自分の考えが説得力をもつように、具体例や同じ考え、反対意見などの材料を集める。	各種資料 インタビュー						○	Bア Bオ
文学的文章	主人公の心の成長や影響が分かる叙述をテキストから取り出す。叙述と叙述の関係から考えたことを書く。	教材文 挿絵 辞書	○						Cイ Cエ
	前時に深まった読みを生かして、叙述から考えたことを書き、まとめる。	教材文 挿絵・表	○						Cイ Cエ
	互いの作品を交換し合って読み合う。感想を出し合い、共感する考えや別の考え、考えを付け足す部分を話し合う。	自他の文章			○				Cエ Aア
	主人公の心の成長について、自分が考えたことを基に友達と意見交流する。	ノート・表							Aア Bエ
	主人公の心の成長や作者が何を伝えたいのかについて自分が考えたことを文章にまとめる。	ノート・表							Bア Bエ
	意見交流から気付いたこと、考えたことを書き足したり、修正したりする。	ノート・表							Aア Bエ
その他の文章	集めた材料を、だれが何のために読むのかを考え、必要な内容を選び、整理する。	教材文 集めた材料					○		Bイ Cイ
	教材文の工夫に気付き、自分でも読む人に合わせて分かりやすい説明になるよう文章や写真、図、表紙、題名などを工夫して表す。	教材文 集めた材料						○	Bエ Bオ
	資料を読んで、身の回りの事物について考える視点を持ち、課題をもつ。	資料・写真 挿絵			○				Cエ

(中学校第1学年)

主な使用教材	読解力向上のための実際の学習活動	テキストの例	読む			表す			指導内容
			取	ま	創	取	ま	創	
説明的文章	問題提起と答えの文に着目し、話題や構成をとらえる。	教材文	○						Cウ
	必要な情報を得るために、目次を読んだり、抜き書きをしたりする。	資料	○						Cカ
	筆者の主張とその根拠となる具体例を正対させてまとめる。	教材文	○						Cウ
	複数の資料や文章を読み、目的に応じて情報を取り出してまとめる。	図表	指導事例 第1時						
		教材文 資料	○				○		Cイ Cカ Bア Aイ
	段落や接続する語句に着目して、展開の工夫をとらえる。	教材文		○					Cウ
	相手や目的に応じて、テキストの内容を取捨選択して、要約したり書き換えたりする。	教材文					○		Cイ Bウ
	筆者が提示した具体例に類似した例を自分の知識や経験の中で考える。	教材文			○				Cオ
文学的文章	筆者のものの見方や考え方や自分のものの見方や考え方を比べ、自分の考えや意見を形成する。	教材文						○	Cオ Bア Aア
			指導事例 第3・4時						
	語り手の視点や場面ごとの時間の関係を読み取る。	教材文	○						Cウ
	人物の関係や出来事の因果関係をとらえる。	教材文		○					Cウ
	描写や表現から人物や作者の思いをとらえる。	教材文		○					Cア
	物語の主題や構造をとらえた上で、書かれなかった場面や、物語の続きを考える。	教材文					○		Cエ Bウ
	作者や登場人物のものの見方や考え方をとらえ、新たな発見をしたり、共感したり、批判したりして、自分の考えを形成する。	教材文 資料			○			○	Cオ Cオ Bア

(中学校第2学年)

主な使用教材	読解力向上のための実際の学習活動	テキストの例	読む			表す			指導内容
			取	ま	創	取	ま	創	
説明的文章	事実と考察を読み分け、その関係を明らかにする。	教材文	○						Cイ
	目的をもって様々なテキストを読み、必要な情報を整理して表す。	資料				○			CオB7
	構成を明らかにしながら読み、筆者の考えをより明確に理解する。	教材文		○					Cイ
	筆者が使う語句の象徴的な意味を明らかにし、個性的な説明の工夫をとらえる。	教材文 辞書		○					Cア
	筆者がどのような視点をもって説明しているかを理解する。	教材文		○					Cエ
	筆者の論理の筋道を明らかにしながら要旨をまとめる。	教材文					○		CエBイ
	根拠とする事実を確かめながら筆者の主張を読み取り、説得力の有無を評価する。	教材文 新聞			○				Cイ
	文章の要旨に対して、自分の知識や経験、調べたことなどを踏まえて意見をもつ。	教材文 資料			○			○	Cエ Bエ
文学的文章	語句の象徴的な意味を明らかにし、表現の工夫や意図をとらえる。	教材文		○					Cウ
	情景や心情を読み深めるために、散文形式や現代文に書き換える。	古典等					○		Cウ Bイ
	登場人物の言動や作品の主題から、人間についての理解を深め、自分の考えを書く。	教材文			○			○	Cエ Bエ
その他	インタビュー、取材メモ、報告など、同じ題材で異なる表現形式のテキストを読み、表現形式による効果の違いについて考えさせる。	教材文		○					Cウ 言エ

(中学校第3学年)

主な使用教材	読解力向上のための実際の学習活動	テキストの例	読む			表す			指導内容
			取	ま	創	取	ま	創	
説明的文章	さまざまな資料から必要な情報を取り出し再構成する。	資料				○			CオB7
	筆者の主張と主張を支える根拠となる事実を取り出す。	教材文	○						Cイ
	筆者が定義づけて使っている語句の文脈上の意味を明らかにして、論理の展開をとらえる。	教材文		○					Cア Cイ
	さまざまな加工をされた情報について、その送り手の意図をとらえる。	新聞 広告等		○					Cエ
	筆者の論理の筋道を明らかにしながら要旨を簡潔にまとめる。						○		C4B4
	筆者の推論や判断の妥当性について吟味する。	教材文			○				Cイ
	問題意識をもって、自分の考えと比較しながら読み、自分の意見をもつ。	教材文			○				Cエ
文学的文章	筆者の主張に対して賛否のどちらかの態度を明らかにし、その根拠や理由を自分の知識や経験に照らして述べる。	教材文 資料						○	Bイ Cオ Bエ
	情景や人物の描写に着目し、表現のもつ象徴的な意味をとらえ、人物の心情や主題に迫る。	教材文		○					Cウ
	表現の特徴や語句の使い方について自分なりの解釈を加えて理解を深め、作品を鑑賞する。	教材文 詩歌		○					Cウ
	作者が原典をどのように解釈し、表現方法を選んでいるか、その効果を考える。	教材文		○					Bイ Cウ 言エ
その他	登場人物の言動や作品の主題から、社会や人間についての理解を深め、自分の考えを書く。	教材文			○				Cエ Bエ
	様々なメディアから出された情報について、読み手に与える印象や効果を考える。	教材文 新聞 広告 映像		○					Cウ 言エ

(高等学校「国語総合」)

主な使用教材	読解力向上のための実際の学習活動	テキストの例	読む			表す			指導内容
			取	ま	創	取	ま	創	
説明的文章	テーマについての的確に読み取る。	教材文	○						Cア
	工夫された表現について調べる。	教材文 資料集	○						言イ
	筆者の考えに沿って内容をまとめる。	教材文				○			Cア
	筆者の主張について、特徴的な表現に着目してまとめる。	教材文		○					Cア
	キーワードをとらえ、全体を要約する。	教材文					○		B4Cエ
	筆者の現状分析を受け、自分の意見を構築する。	教材文 資料			○				Cア Bア
	文章の内容と関連した課題を設定して、自らの意見を発表する。	教材文 資料						○	Bア A1ウ
文学的文章	人物の境遇や時代及び社会背景等、作品の背景についてまとめる。	教材文	○						B4Cイ
	心情がよく表れている場面や語句を挙げる。	教材文	○						Cウ
	比喩表現や風景描写の効果を考える。	辞典		○					言イ
	表現に着目し人物の思いを読み取る。	教材文		○					Cウ
	人物の様子から、小説のおもしろさについて考える。	教材文					○		Cエ
	人物の描き方を内容に照らして、まとめる。	教材文		○					Cア
	作品の主題に対する作者の考えをとらえ、自分の思いをまとめる。	資料等			○				C4A7
	様々な表現方法に対するイメージや効果について考え、自分の表現活動に取り入れる。	教材文 辞典 資料集				○			Bウ 言イ

算数・数学科における「読解力」を重視した具体的な学習指導例一覧

学年	読解力向上のための実際の学習活動	テキスト の例	読む			表す		
			取	ま	創	取	ま	創
小学校第1学年	テキストを見て、観点や条件に応じてものの集合を明確にとらえる。	絵 友達の考 え 問題文	○					
	観点や条件に応じてものの集合をつくる。 1対1の対応により、二つの集合の要素について個数の大小を判断する。			○				
	1対1の対応により、二つの集合の要素について個数の大小を判断することができることに気付く。				○			
	テキストを見て、観点や条件によりものの集合を明確にとらえ、自分の言葉で言い表す。					○		
	観点や条件に応じてつくったものの集合を自分の言葉で言い表す。 1対1の対応により、二つの集合の要素について個数の大小を判断したことを自分の言葉で言い表す。						○	
	1対1対応により、二つの集合の要素について個数の大小の判断ができることに気付く、それを自分の言葉で言い表す。							○
小学校第2学年	テキストを見て、解決への見通しをもつ。	問題文 図 友達の考 え	○					
	ある部分の大きさを基にして、その幾つ分として、全体の大きさをとらえる。			○				
	一つの数について、相対的にとらえることにより多様な見方ができることに気付く。				○			
	テキストを見て、解決への見通しについて自分の言葉で表現する。					○		
	ある部分の大きさを基にして、その幾つ分として、全体の大きさをとらえ、自分の言葉で表現する。						○	
	一つの数について、相対的にとらえることにより多様な見方ができることに気付いたことを自分の言葉で表現する。							○
小学校第3学年	テキストを見て、解決への見通しをもつ。	図 問題文 式 友達の考 え	○					
	被乗数が10を超える乗法について自力解決する。			○				
	乗法について交換法則、結合法則、分配法則が成り立つことに気付く。				○			
	テキストを見て、解決への見通しについて説明する。					○		
	被乗数が10を超える乗法について自力解決したことを説明する。						○	
	乗法について交換法則、結合法則、分配法則が成り立つことに気付く、それを説明する。							○
小学校第4学年	テキストにある情報を正しく理解するために、数量の変化や共通点、相違点に着目して分類し、整理する。	問題文 図、表 式 友達の考 え	○					
	テキストの内容から、共通点や相違点に着目し、問題に即して情報を整理し、問題を解決する。			○				
	テキストから見いだしたきまりや考え方を使って、他の課題の解決方法に適用する。				○			
	テキストにある情報を正しく理解するために、分類したり、整理したりした情報を簡単な表や図、文章で表す。					○		
	テキストの内容から自力解決で見いだした規則性を説明したり、話し合ったりして、妥当性を吟味する。						○	
	テキストから見いだしたきまりや考え方を使って、他の課題での解決法について説明する。							○
小学校第5学年	テキストにある情報を正しく理解するために、関係性や構成要素に着目して必要な情報や不必要な情報に分ける。	問題文 表 イラスト 式 友達の考 え	○					
	テキストの内容から、関係性に着目し、規則性を見付けたり、式から関係を読んだりする。			○				
	テキストから見いだしたきまりや考え方を使って、他の課題の解決方法に適用する。				○			
	テキストにある情報を正しく理解するために、関係性や構成要素に着目して簡単な表や図、文章で表す。					○		
	テキストの内容から自力解決で見いだした規則性や式を説明したり、話し合ったりして、妥当性を吟味する。						○	
	テキストから見いだしたきまりや考え方を使って、他の課題での解決法について説明する。							○

学年	読解力向上のための実際の学習活動	テキスト の例	読む			表す		
			取	ま	創	取	ま	創
小学校第6学年	テキストにある情報を正しく理解するために、既習事項を生かして、必要な情報や不必要な情報に分ける。	問題文 表、式 図 友達の考 え	○					
	テキストの内容を、既習事項を活用して、規則性を見付けたり、関係を式で考えたり、式から関係を読んだりする。			○				
	テキストから見いだしたきまりや考え方を使って、他の課題の解決方法に適用する。				○			
	テキストにある情報を正しく理解するために、既習事項を生かして、簡単な表や図、文章で表す。					○		
	テキストの内容から自力解決で見いだした規則性や式を説明したり、話し合ったりして、妥当性を吟味する。						○	
	テキストから見いだしたきまりや考え方を使って、他の課題での解決法について説明する。							○
中学校第1学年	テキストの意味を理解し、目的に応じて、テキストから情報を取り出し整理する。		○					
	テキストの条件に合わせて解答する方法を考えるために、テキストの情報を整理し、数学的な関係を見だし、考察する。			○				
	図や式や表などを使って、具体的な場面を考察したり、考察したものから新たな場面を設定したりする。				○			
	テキストの意味を理解し、テキストから必要な情報を取り出したものを整理し、図や式や表、文章などで表す。					○		
	テキストの意味を理解し、整理した情報に自分の考察を加えた内容を、図や式や表、グラフに表に表す。						○	
	テキストから具体的な場面が考察したり、新しい場面を設定できるように、図や式や表、言葉などをまとめ、簡潔に表す。							○
中学校第2学年	テキストの条件を満たすために、目的に応じて、テキストから情報を整理して取り出す。	問題文 グラフ 図、表 式、図形	○					
	テキストの条件を満たすために、テキストから取り出した情報に自分の解釈を加え、論理的に考察する。			○				
	テキストから、既習事項を基に条件を設定して情報を取り出し、論理的に構成する。				○			
	テキストの目的に応じて、テキストから情報を取り出し、整理したものを、図や式や表、文章などで表す。					○		
	テキストから取り出した情報に自分の解釈を加え、論理的に考察を加えた内容を、図や式や表、グラフで表す。						○	
	テキストから、既習事項を基に条件を設定して情報を取り出し、論理的に構成したものを図や式や表、言葉などで効果的に表す。							○
中学校第3学年	テキストに示された事象の間に、目的に応じて共通点や違いを見付ける。		○					
	テキストの共通点や違いをとらえ、それらの関連を論理的に考察し、明らかにする。			○				
	テキストから取り出した情報を多角的に考察し、論理的な解釈を加えて活用する。				○			
	テキストに示された事象の間に、目的に応じて共通点や違いを見付け、図や式や表、文章などで表す。					○		
	テキストから取り出した情報を多角的に考察し、論理的な解釈を加えて、図や式や表、文章などで表す。						○	
	テキストから取り出した情報を多角的に考察し、論理的な解釈を加えて活用したものを、図や式や表、文章などで表す。							○
高等学校数学Ⅰ	問題文で示された事象の間に、共通点や違いを見付けることができる。		○					
	共通点や違いに関する特徴をつかみ、それらの関連を式やグラフ、図形として考えることができる。			○				
	与えられた条件に従って式やグラフ、図形を変形できる。				○			
	示された事象間の共通点や違いを説明することができる。					○		
	共通点や違いに関する特徴をつかみ、それらの関連を式やグラフ、図形としてかくことができる。						○	
	与えられた条件に従って変形させた式やグラフ、図形を表すことができる。							○